

合成事業部スタッフの最近の話題を
ピックアップしてお届けします!

Current Topics

2025年2月26日号

『鳥インフルエンザ ~どのように広まっています、どのように監視すべきか~』

2025年2月26日号

『鳥インフルエンザ ~どのように広まっています、どのように監視すべきか~』

先月に米国において鳥インフルエンザによるものと思われる初の死者の発表があり、また日本国内においても養鶏場での検出が相次いで確認され、1月31日には農林水産省で緊急の対策会議が開かれるなど、過去に類を見ない事態となっています。このような状況では、現状やリスクの正しい認識と把握がとて重要となります。また、正しい知識を持つことも、とても大切です。

米 CDC より/鳥インフルエンザ流行の最近の状況

鳥インフルエンザ流行について、米国 CDC (疾病対策予防センター) では、どのような見解を示しているのでしょうか。

What to know

- ・ H5 型鳥インフルエンザは世界中の野鳥に蔓延しており、家禽や米国の乳牛で集団発生を引き起こし、最近では米国の酪農家や家禽労働者からのヒト感染者が出ています。
- ・ 現在の公衆衛生上のリスクは低いですが、CDC は状況を注意深く観察し、各州と協力して動物に暴露された人々を監視しています。
- ・ CDC はインフルエンザサーベイランスシステムを用いて、H5 鳥インフルエンザの人への感染を監視しています。

米国 CDC では、H5N1 鳥インフルエンザの流行の現状については、動物での発生は確認されているものの、引き続き『人から人への広がりなし』『現在の公衆衛生リスクは低い』と評価しています。

※米国 CDC より;[2025年2月24日更新; 2025年2月25日参照]

⇒[詳細はこちら](#)

鳥インフルエンザ危険信号

ジョンズ・ホプキンス大学ブルームバーグ公衆衛生大学院へのインタビューでは、大変興味深い記載がありました。

On January 6, the Louisiana Department of Health announced that a patient hospitalized last month for H5N1 avian influenza had died, becoming the first U.S. death from the virus. To make matters worse, samples taken from the individual suggest that the virus mutated within the patient after infection—meaning it had begun to adapt to infect humans better—raising new questions about H5N1's pandemic potential.

また、インタビュー当初の状況や季節性インフルエンザとの関連性、パンデミックやウイルスの脅威、酪農業界への影響などについても言及しています。

※ジョンズ・ホプキンス大学ブルームバーグ公衆衛生大学院へのインタビュー記事より一部を抜粋;
[2025年1月14日更新; 2025年2月18日参照]
⇒[詳細はこちら](#)

鳥インフルエンザを知る

JAMA (米国医師会雑誌) より発行された鳥インフルエンザに関する記事をご紹介します。感染経路や症状、診断、予防、治療について、そして、2025年1月6日時点の米国における状況について大変簡潔にまとめられています。

※JAMA より [2025年1月10日更新; 2025年2月5日参照]
Saravolatz, Louis D., and Preeti N. Malani. "What Is Bird Flu?." JAMA (2025).

鳥インフルエンザの症例分析

同じく JAMA より、現状の見極めが重要であることを説いた記事をご紹介します。

※JAMA より [2025年1月31日更新; 2025年2月6日参照]
Anderer, Samantha. "Bird Flu Case Analysis Calls for Balancing Heightened Vigilance and Routine Practice." JAMA (2025).